

令和3年度 岩内第一中学校 年度末学校評価

8割以上を 5ポイント以上上昇を 青字
 7割未満を 5ポイント以上下降を 赤字

で表しています。

本年度の重点教育目標 「自分の将来を描き、主体的に発信できる生徒の育成」

- | | |
|--|---|
| ①「自ら学ぶ姿勢を育てる」～主体的な学習習慣の定着～
②「主体的に発信するための知識・技能を育てる」
～基礎・基本等の確実な定着等～
③「自信が持てる心を育てる」～自己肯定感の高揚～ | ④「自らの判断で活動できる力を育てる」～自己決定力の育成～
⑤「職員の心身の安定を図る組織をつくる」
～個の力が活かされる組織力～
⑥「地域連携が図られる環境をつくる」～小中、中中連携の強化～ |
|--|---|

	教職員自己評価	評価	保護者評価	評価	生徒評価	評価	成果と課題	学校関係者評価	
								自己評価の適切さ	成果と課題の適切さ
家庭学習の習慣化	私は生徒の学習用具持ち帰りの指導・徹底に努めた。	81	お子様は、家庭学習の取組を考えながら、家庭に持ち帰る学習用具を決めている。	67	学習用具は、家庭学習の取組を考えながら、学校に置いて帰る物と持ち帰る用具を決めている。	79	・生徒が自ら持ち帰るべきものを考えられるよう促す指導を継続した結果、前期と比較し生徒の評価に伸びが見られた。保護者の理解も深まっていると考えられる。次年度も継続的に取り組んでいく。 ・学習に向かう姿勢については教師と生徒の評価に大きな溝が見られる。また、家庭学習についてはデータを取りながら改善を図ってきたが、その活用については十分とは言えない。授業改善に引き続き取り組むとともに、生徒が達成感や自己肯定感を味わえるよう、本年度の家庭学習チェックシートのデータを活用し、取組を充実させていく。	B	A
	私は、生徒自身の学習課題を明確にし、自ら学習に向かう姿勢づくりに努めた。	94	お子様は、自分の学習課題（教科別の得意・不得意、単元毎の内容の違い等）を理解しながら学習に取り組もうとしている。	67	わからないことは、そのままにせず、わかるまで努力しながら学習に取り組むようにしている。	70		B	A
	私は、「家庭学習チェックシート」や「テスト学習計画表」等を活用し、生徒の日々の家庭学習（宿題や塾での取組で終わらせない学習方法）の指導に努めた。	75	お子様は、家庭学習の習慣が身に付いている。	48	「家庭学習チェックシート」や「テスト学習計画表」等を活用し、日々の家庭学習に計画的に取り組んでいる。	55		B	B
生徒の育成	私は、校内研修の取組を、自分自身の授業改善に有効に生かしている。	88					・本年度の校内研修では、学びのゴールを明確にするという研究主題のもと、基礎・基本の定着に努めてきたが、それが十分に引き渡っていないアンケートの結果となった。授業の中で個に応じた課題解決の時間を設ける等、引き続き授業改善に努めていく。 ・本年度の重点目標の中の「主体的に発信する生徒」については、総合的な学習の時間等で取り組んではいるものの、生徒の実感は今ひとつである。タブレットPC等のICT機器を活用しながら、主体的に発信したり表現したりすることを生徒が実感できるよう取組を進めていく。 ・総合的な学習の時間、特別活動などで自分の生活や将来について考える学習や、キャリアパスポート等を使って自分の目標を設定したり成長を振り返ったりする取組の家庭への発信を充実させていく。	A	A
	私は、基礎・基本の定着のために、個に応じた指導等を工夫しながら教科経営をしている。	100	お子様は、学校の授業等において、個に応じた指導を受けていると感じる。	55	授業や放課後学習などにおいて、わからないことなどを先生に質問しようと取り組んでいる。	53		C	B
	私は、生徒が主体的に発信できるよう、教科や総合的な学習の時間、特別活動、道徳等の授業を工夫している。	88	お子様は、主体的に物事を発信したり表現したりできるよう成長してきている。	74	教科や総合的な学習の時間、特別活動、道徳等の授業で、主体的に発信したり表現したりしている。	71		B	B
	私は、総合的な学習の時間や特別活動等で、キャリア形成と自己実現を図ることを意識して取り組んでいる。	94	お子様は、学校生活の中で、自分の生活や将来を考えられるよう成長してきている。	57	学校で学んでいることが、自分の生活や将来に生きるだろうと実感することができる。	75		B	B
自己理解	私は、自己評価・他者評価などを通し、自己を振り返る学年・学級経営計画の立案に努めた。	94	学校は、お子様のよさや仲間よさを認め合う教育活動を位置付けている。	74	学校生活を通して、自分のよさや友だちのよさを認め合う場面があると感じる。	88	・学校生活を通して、自分のよさや友だちのよさを認め合う、自分やクラスの成長が感じられる、については8割を超える生徒が肯定的な回答をしており、成果が見られる。 ・道徳の授業等では、生徒は心の成長を実感できずにいる生徒も少なくない。道徳教育の充実に向け、研修等で取組を進める。 ・自分には良いところがあると思う、については、前期より6ポイント伸びている。引き続き、自分に自信を持つ指導について継続して取り組む。	A	A
	私は、授業や行事など、日常生活に直結した指導計画の立案に努めた。	94	日常の授業や学校行事を通して、お子様の成長を感じることができる。	84	学校生活を通して、自分やクラスの成長が感じられる。	84		A	A
	私は、内容項目を押さえた道徳の授業や日常の道徳教育を行った。	89	学校生活を通してお子様の道徳性の向上を感じる。	76	道徳の授業や学校生活を通して、自分の心が成長していると感じる。	74		B	B
	私は、生徒の成功体験の機会設定を行うことによる自己理解を深めさせる指導に努めた。	100	お子様は、自分に自信がもてる心が備わってきている。	60	自分には良いところがあると思う。	76		B	A

達成感を実感できる学校生活	私は、校外内における「一中生挨拶」の指導・強化に努めた。	94	お子様は、校外内ですんで挨拶をしている。	78	積極的に挨拶をしている。	96		A	A
	私は、実践に導く生徒の自己判断・自己決定の機会設定に努めた。	95	お子様は、自分で考え、物事を判断している。	83	物事を決めるときは、自分の考えで判断している。	84	・いじめの未然防止については、生徒・保護者・教師とも共通の意識で取り組むことができていることから、継続して指導していく。	A	A
	私は、学年・教科・部活等の指導体制の連携強化に努めた。	89	学校は、先生方の連携が取れた段差のない指導をしている。	64	先生方は、学習や生活の決まりなどについて、みな同じようなことを言うのでわかりやすい。	77	・感染症対策については、換気、階段の手すりの消毒は毎日継続している。オミクロン株が流行している今だからこそ、基本的なことから感染症対策を的確に行っていく。	B	B
	私は、いじめを発生させない未然防止の取組に努めた。	100	お子様は、いじめは絶対に許さないと考えて生活している。	91	いじめは絶対に許さないという考えで、思いやりの気持ちを大切にしながら毎日を過ごした。	96	・休み時間はできるだけ教師が教室にいる取組を継続し、生徒の安心感は6ポイント伸びている。引き続き信頼関係を構築する取組を継続していく。	A	A
	私は、生徒や保護者が登校に不安を感じないよう、感染症対策に努めた。	100	学校の感染症対策は、適切であると感ずる。	79	学校の感染症対策で、不安なく登校することができている。	94	・大人に相談することへの抵抗感を減らすために、スクールカウンセラーの回数を増やすよう、関係機関への働きかけを継続して行っていく。	A	A
	私は、相談しやすい環境を作る等、生徒が安心して毎日を過ごせるよう努めた。（不登校への対策も含む）	95	学校は、相談しやすい環境を作る等、生徒が安心して毎日を過ごせるようにしている。	67	悩みがあれば先生方に相談するなどし、学校へ安心感をもつことができている。	71		B	B
心身の充実	私は、組織としての各種業務運営を確立させることによる個人負担の軽減に努めた。	84					・小中一貫教育については、一中が中心となり進めてきたが、数値を見ると、もう少し教職員全体の取組となるよう推進すべきであった。次年度は本町での義務教育学校スタートに向け、教職員全体の取組となるよう配慮しながら進める。	A	A
	私は、各種業務のPDCAサイクルの徹底に努めた。	84						A	A
	私は、小中、中中の連携による体制強化に努めた。	63						B	B
働き方改革に地域連携を高める	私は、各教育活動の教育課程への位置付けについてその意義を理解し、指導に努めた。	89	学校の各種取組は、その目的や関連性が理解しやすい。	63	学校の取組は、目的やつながりがわかりやすい。	79	・学校の各教育活動の関連性については、生徒、保護者とも前期とほぼ同じポイントとなっている。キャリア・パスポート等を活用しながら、成長を実感できる取組にしていく。	B	B
	私は、町教委の「部活動指導のガイドライン」に準じた部活指導に努めた。	95					・CS（コミュニティ・スクール）では、学校の網戸の取付および、部活動後下校の見守り活動を行った。学校運営協議会との連携を深め、さらに地域に根ざした学校の在り方について検討していく。	A	A
	私は、学校運営協議会(CS)を活用するなど地域人材の活用に努めた。	61	学校は、学校運営協議会を活用するなど、地域人材の活用に努めている。	60	地域の方をはじめとする外部の方々と接する機会がある。	62		B	B

◎ 学校評価とは

（前略）学校は、（中略）学校の教育活動その他の学校運営の状況について評価を行い、その結果に基づき学校運営の改善を図るため必要な措置を講ずることにより、その教育水準の向上に努めなければならない。（学校教育法第42条より）

これにより、次の1～3の規定に則り、本校でも学校評価を行いました。以下、学校評価についての説明・補足を記しますので本評価書と併せてご覧ください。

1. 教職員による自己評価の実施

(1) 前期、後期の2回に分けて教職員自己評価（以下自己評価）を実施しました。また、関連項目を全校生徒と保護者の皆様にも同様に実施しました。

2. 保護者などの学校の関係者による評価（「学校関係者評価」）の結果公表

(1) 岩内町では、「学校関係者評価」を学校運営協議会委員の皆様に行っていただくことになっています。

(2) 学校関係者評価は、令和4年2月25日（金）第3回学校運営協議会（書面会議）を実施し、承認していただきました。

(3) 学校関係者評価では

①自己評価の結果の内容が適切かどうか～ 評価書「自己評価の適切さ」

②自己評価の結果を踏まえた今後の改善方策が適切かどうか～ 評価書「成果と課題の適切さ」

③学校の重点目標や自己評価の評価項目等が適切かどうか

④学校運営の改善に向けた実際の取組が適切かどうか

等を3段階（A:十分 B:概ね十分 C:不十分）で評価しました。

(4) 結果の公表については

①自己評価及び学校関係者評価書を岩内町教育委員会に提出

②自己評価及び学校関係者評価書を学校ホームページに掲載

③自己評価及び学校関係者評価書を保護者の皆様に配布

によって行いました。

岩内第一中学校

教頭 白井尚史

電話：62-0333